この田圃の畔道に、大きな杉の木が一本つい最近まであった。人々はねんがら杉と呼んで、親しみをもっていた。

この杉は、古くから続いた遊びに「ねんがらぶち」というのがあってその遊び道具である杉のねんがらがくいついたものだという。

ねんがらぶち遊びは、直径二・三センチ、長さ三〇センチ程の木の先をとがらせたものを、適当に湿っていてよくささる田や庭の隅で勝負する男の子の遊びである。年輩の方ならだれでもが一度ぐらいは遊んだことのある楽しい遊びであった。

一人が地面に力いっぱいねんがらをぶち込むと、相手はこの根元めがけて自分のねんがらをぶち込み、さきのものを倒せば勝てるが、倒れなければ、交替で何度もやり合う。こうして子どもたちは日暮までねんがらぶちに熱中した。

ねんがら杉は、こうしたなつかしい遊び道具の杉のねんがらが、生きづいて大木となったものである。

この近くに、その昔、鍛治屋があってみごとな真弓の大木があったと伝えている。

（話者　岡部利重）

古舘の桜

《古舘》

古舘屋敷の東北の地に、大きな紅しだれの桜がある。樹高一二メートル根廻り、六メートル、目通り